

マタイの福音書 第 11 章 20～30 節

主イエスが、多くの力あるわざ、奇蹟が行われた町々が悔い改めなかったために責められている箇所です。この責めは咎めるということではなく、主イエスの嘆き、悲しみにも聞こえます。

ここでいう力あるわざ、奇蹟とは人の目から見ても好ましいことです。「目の見えない者が見、足のなえた者が歩き、ツアラアトに冒された者がきよめられ、耳の聞こえない者が聞き、死人が生き返り、貧しい者たちに福音が宣べ伝えられ」(5 節) たのです。

しかし、奇蹟とは人の目から見ても好ましいことばかりなのでしょうか。人の生き方が劇的に変えられるきっかけとなる出来事を奇蹟として捉えることもできるのではないのでしょうか。人の力では変えられなかったことが、人の目からすれば必ずしも好ましいことではない、例えば今回の感染症拡大のようなことをきっかけとして変えることができる、そんなことが意外に多いのではないのでしょうか。

元に戻って良いことと戻ってはならないこと、変えなければならないことがあるでしょう。今、それが問われているのと同時に、それ以上に戻るべき元があるのだということもまた覚える時でもあります。